

海外安全官民協力会議 第65回幹事会開催結果

1. 日 時 : 令和元年7月12日(金) 11時～12時30分

2. 場 所 : 外務省(272国際会議室)

3. 出席者 : 幹事会メンバー 28名
オブザーバー 4名
大隅 洋 領事局 参事官
長徳 英晶 領事局 政策課長
上田 肇 領事局 邦人テロ対策室長
松前 了 領事局 海外邦人安全課 邦人援護官

4. 新任挨拶(大隅 領事局参事官)

5日付で領事局参事官に着任。直近は在イスラエル日本国大使館勤務。イスラエルは紛争地の印象が強いが、実際には雰囲気は明るく、日本からの出張者はイメージとの違いに驚かれる方が多い。しかしながら、時々ロケットが飛んでくることがあり、イスラエル全土が安全という訳ではない。本日の企業側との意見交換のテーマが「危険レベル1, 2地域への出張者・赴任者への安全対策教育と課題について」ということもあり、皆様と活発な議論ができることを期待している。

5. 領事局からの報告

(1) 最近の領事局の取組(長徳 領事局政策課長)

領事局では、毎年春休みや夏休み等にあわせ集中的に海外安全に関する広報及び啓蒙活動を実施しているが、本年もこれから始まる夏休みシーズンに「夏休み安全対策キャンペーン」を実施する。7月16日の大臣会見にて詳細を発表させていただくが、期間は7月20日から9月1日までで、キャンペーンの目玉として、日本航空及び全日空の協力により、全ての日本発のJAL, ANA国際線において海外安全への注意と、「たびレジ」への登録を呼びかける機内アナウンスを実施いただけることとなった。両社にはこの場を借りて改めてお礼申し上げたい。なお、同様の機内アナウンスはゴールデンウィーク期間の10連休中にも実施していただいたが、今回は期間も長く、大きな効果があるものと期待している。

その他、グーグルとの連携によるバナーの掲載や、企業向けの内容の海外安全クイズの追加公開、また、「たびレジ」の広報として、前田敦子氏主演映画とのコラボポスターを作成し、全国の旅券事務所及び旅行会社等に掲示をお願いしている。BS・TBSの徳光和夫氏が出演する政府広報の番組での「たびレジ」広報、

また、外務省ツイッターを使用したイベント等も企画している。夏休み安全対策キャンペーンについては、各社の皆様からもぜひ周知いただきたい。

（２）各国の危険情報（松前 海外邦人安全課 邦人援護官）

①香港：「逃亡犯罪人条例等改正案」に反対する抗議活動に関する注意喚起

６月と７月に在香港総領事館より領事メールを発出。７月２日付で発出したスポット情報では、情勢に留意し、最新の安全情報の入手と、自らの安全確保を呼びかけている。

②スリランカ：危険レベルの改訂

４月に同時多発テロが発生し、危険レベルを１から２に引き上げたが、その後のスリランカ治安当局による集中的な捜査により、治安状況が安定してきたことから、６月２５日に危険レベルを１に引き下げた。

③広域情報：台風及びハリケーン・シーズンに際しての注意喚起

毎年６月から１１月にかけて北西太平洋等に面する国では台風シーズンになり、北米地域等ではハリケーンのシーズンになるので、関連情報に注意するよう広域情報を発出している。

（３）各事案への対応（上田 邦人テロ対策室長）

①ホルムズ海峡付近における日本関係船舶の被害

６月１３日に日本企業タンカーを含む２隻が航海中に被弾した。日本関係船舶であったが、邦人の被害も、貨物や燃料への損失もなかった。同日に在外公館より領事メールとスポット情報を発出した。領事局として対応できることは限られているが、今後も迅速かつ適切な情報発信に努めていきたい。

②官民合同テロ・誘拐対策実地訓練簡易版の実施

昨年秋に初めて東京で実施した同訓練を、今年も秋に東京で２回実施予定。前回同様、比較的参加しやすい料金でご案内できる予定なので、ぜひご活用いただきたい。

③在外安全対策セミナー

今年度は１１都市で実施予定。特に邦人数が多いニューヨーク及びマニラではできるだけ多くの方にご参加いただけるよう２回ずつ実施する予定になっている。是非とも皆様からも関係者にご案内願いたい。

（４）質疑応答

（企業側質問）

●スリランカの危険レベルについて、スリランカ政府が非常事態宣言を延長したにも関わらず、外務省は危険レベルを引き下げたが、その理由を伺いたい。

(外務省回答)

スリランカ側も様々なテロ対策をとる中で、非常事態宣言等を出したが、必ずしも治安状況だけを反映したものではないと捉えている。諸外国も、同じタイミングでレベルを引き下げている。今回のテロは小さなグループによる自爆だったが、テロ組織は壊滅し、他の大きなテログループの存在も確認されていないことなどから、外国人を狙ったテロが再発する可能性は高くないと考えている。今回の危険レベル引き下げは、これらを総合的に判断したということである。なお、危険情報にはテロの脅威は100パーセント排除されたわけではないと記載している点に留意頂きたい。主要なホテルも現在は金属探知機を設置する等の対応をしており、テログループも排除できたと考えるが、やはり注意を怠るべきではないのが現状である。

6. 企業側との意見交換

テーマ

「危険レベル1, 2地域への出張者・赴任者への安全対策教育と課題について」
(事前に回収したアンケートに沿って、企業から各項目の取組について説明)

(1) 危険レベル1, 2地域への出張者・赴任者への安全対策教育の取組例

●新しく拠点長として赴任する社員へ研修を実施

- ・新しく赴任する拠点長に対し、安全対策に対する拠点長としての心構えや、判断基準等を事前に指導している。
- ・渡航先がハイリスクの地域であること、また、初めて拠点長となることを踏まえ、対象者に2時間マンツーマンで日常生活から出張者の受入に至るまで、安全管理に関する様々な講義を実施している。

●赴任後の赴任先における研修の実施

- ・渡航後1年程経つと生活への慣れが出てくるので、トラブルの発生を防止する観点から赴任後も渡航先において研修を実施している。

●家族向け教育の実施

- ・帯同家族がいる社員からの要望を受けて、駐在員とは別にファミリーセミナーを実施している。別立てにすることで、夫人の問題意識を確認でき、個別の対応が可能なことがメリットだが、時間がかかるのがデメリット。一部外部に委託している。
- ・主に駐在員と帯同家族に対し、赴任前のセミナーで、産業医から海外での健康管理や海外医療保障制度について1時間ほどレクチャーしている。

●実地訓練の実施

- ・2013年から体験型のテロ・誘拐対策訓練を開始しており、非常に実践的で

役に立つという意見が多い。訓練は実際の爆弾の音を出して行うこともあり、イギリスの地方で実施される為、受講の為には往復も含め約 1 週間を要する。しかし実際のテロ現場となったビル内に事務所があり、訓練を受講した社員が滞在していたが、訓練を思い出して対応するよう指示することで、当事者も落ち着いて対応することができたことから、訓練の有用性を改めて感じた。

●E ラーニングを活用した研修の実施

・外務省の海外安全クイズを E ラーニングとして新入社員及び、事務職でプライベートに海外に渡航する者に活用してもらっている。初年度は外部から購入したソフトで行っていたが、社員から家族にも見せたいというリクエストがあり、2 年目からは外務省の「海外安全クイズ」ページにリンクする内容にしている。海安 HP はコンテンツが多すぎるのが難点だが、クイズは非常に好評。E ラーニングのコースは 6 つに分けており、感染症、ハイリスク、渡航について等から、それぞれの経験に基づいて選択できるようにしている。

●現地職員への教育の徹底

・出張者が現地訪問した際に、安全情報のレクチャーを実施しているが、危険な場所にはツアーを組まず、視察も行わないので、現地職員へのレクチャーは最新の治安情報の共有が中心である。

●セミナーで実際に遭遇した被害事例を共有

・誰にでもいつでも起こりうることを認識してもらうために、実際に社員が遭遇した事案を共有し、心構えをもたせるよう取り組んでいる。

(2) 研修を通じた成功事例

・危険意識があまり高くない乗務員に対して、現地から入手した具体的な注意喚起情報を共有したところ、乗務員の危機意識が高まった。

・出張者及び赴任者へ赴任前教育にて犯罪被害の事例や手口を詳しく説明することにより、犯罪被害に遭う件数が減少した。